

○活動対象地域は、平成13年頃から雑草イネの発生が目立つようになり、直播栽培の断念など、生産コストの増加、機械作業効率や米の品質低下が問題となっており、効果的な雑草イネ撲滅への取り組みが急務。

○普及センター、地域の大規模生産者、JA及び市町村が連携して一体的活動を行う『北信地域雑草イネ対策チーム』が中心となり、実証圃、啓発資料、講習会などの活動により、撲滅への取り組みを支援した。

○地域ぐるみで取り組む必要性が浸透し、**全農家が対策に取り組んだ**。
雑草イネ発生面積：35ha→20ha（平成27→29年度）、**激発圃場は無くなった**。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 雑草イネ防除技術の確立

■除草剤試験圃の設置

・試験の結果、雑草イネの防除基準を効果の高い「初期剤＋初中期剤＋後期剤」の体系処理に決定

■抜き取り作業の省力化技術（水田除草機）の効果確認

・省力的に除草ができ、高い防除効果を確認。

■減水深と除草剤防除効果の実態調査

・畦畔からの漏水防止により除草剤効果が向上

■石灰窒素による発芽抑制効果試験

・秋散布による発芽抑制効果を確認

■水稻直播栽培拡大のための撲滅展示圃設置

⇒雑草イネに対する**効果的な防除マニュアルができた**

2 地域ぐるみの防除実践への誘導

■雑草イネの撲滅に向けて意識統一を行い、一体的活動を行う関係機関の**推進体制が整備**された。

■普及センター及び地域の大規模生産者、JA及び市町村が連携して一体的活動を行う『北信地域雑草イネ対策チーム』が中心となり、実証圃、講習会などを活用した啓発活動により、撲滅への取り組みが行われた。対策技術が向上し、全農家が対策を実施した。

・雑草イネ発生面積：**35→20ha**（H27→H29）

・激発面積：**1→0ha**（H27→H29）

（激発面積：発生量が多く抜き取り困難な圃場面積）

・雑草イネの防除啓発資料を作成して、発生地域への全戸配布や発生ほ場の把握とマップ化、発生圃場の抜き取りの個別指導を実施

・実証圃場を活用した実証試験や研修会、広報利用等により、防除手段等の**速やかな地域への導入を目指した**。

【平成28～30年】

■防除技術の確立に向けた取り組み

・除草剤試験圃を設置し、雑草イネに対して効果がある除草剤の効果試験を7区（1区50m²）設置し、**有効な薬剤と防除体系を選定**

・抜き取り作業の省力化技術（水田除草機）の効果確認試験圃の設置による効果確認

・地域内の発生圃場をリスト化

・各種調査・試験の継続。**効果的な防除技術として取りまとめ、防除啓発資料を作成**

・**防除対策の有効性を検証し、防除のポイントを把握**

■防除啓発に向けた取り組み

・普及センターからの提案により『北信地域雑草イネ対策チーム』が**設立**

・**防除意識啓発のための広報資料の作成・配付**

・撲滅展示圃を活用した水稻直播面積の拡大

・各種調査・試験結果の**成績検討会**の開催

・『北信地域雑草イネ対策チーム』による**防除対策の意識統一**

普及指導員だからできたこと

・地域に導入可能で効果的な防除対策技術を実証圃において検討し、試験場や他の関係機関と連携して、最適な防除方法を確立できた。

・JA及び生産者組織と速やかに連携して、発生状況の把握、啓発資料の作成・配布及び防除講習会を開催し、雑草イネ対策の啓発・実践を早期に実施することができた。

地域ぐるみでの雑草イネ撲滅への取組

活動期間：平成28年度～30度

1. 取組の背景

飯山市では、県内でも早くから水稻の直播栽培が普及したが、それをきっかけとして、平成13年頃から雑草イネの発生が目立つようになった。

直播栽培の減少と防除対策の実施により、一旦雑草イネの発生は減少したが、雑草イネへの慣れ、水田管理者の高齢化、色彩選別機の利用などから対策が疎かになり、今後、発生量の増加、発生エリアの拡大に転じる恐れがある。

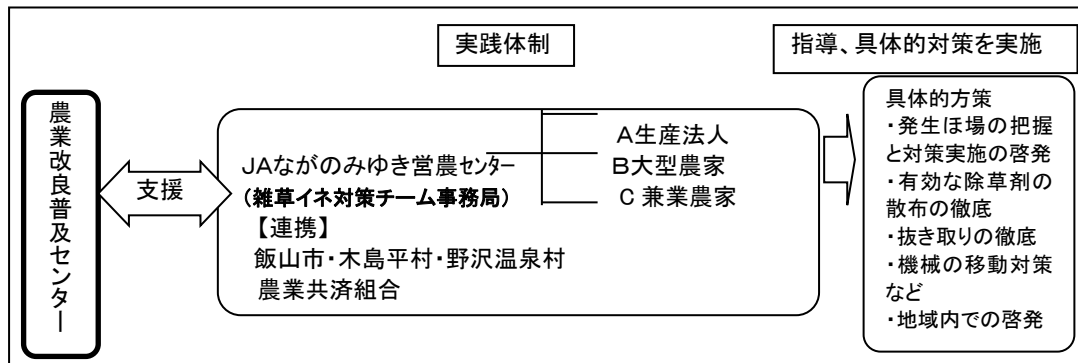
そこで、発生ほ場における根絶と発生地域の拡大を未然に防ぐため、農業改良普及センターが支援をしながらJA、市、周辺村、農業共済組合、農業者など関係者が一体となった効率的かつ効果的な雑草イネ撲滅への取組を進める。

2. 活動内容

(1) 「地域ぐるみ」での雑草イネ防除体制の整備

雑草イネ防除のためには地域全体の発生実態を把握したうえで、個々の水田での防除対策と地域内で関係者の情報共有が必要となる。そこで、関係者が連携して一体的活動を行う『北信地域雑草イネ対策チーム』を組織し、撲滅への取組を始めた。

・北信地域雑草イネ対策チーム



(2) 地域ぐるみでの防除啓発

雑草イネの防除啓発資料を作成して発生地域へ全戸配布を行った。年3回の現地調査による発生ほ場の把握・情報共有と発生状況をわかりやすくマップ化し、発生農家への個別指導や地域の全農家を対象にした防除技術研修会を実施し、未発生農家にも警戒を怠らないように意識統一を図った。



雑草イネ発生ほ場のマップ化

(3) 雑草イネ防除試験ほの設置

雑草イネに対して除草剤の効果試験を行い、除草剤の体系処理による雑草イネの防除基準を策定し、当地域の発生農家へ指導を行った。

また、除草剤の効果を高めるための漏水対策や田植えを遅らせるなどの耕種的対策、水田の点検・抜き取り対策などを組み

合わせた方法により「雑草イネ撲滅展示ほ」を設置し、3年での撲滅をめざし、その後、直播栽培の再導入を検討している。

その他、水田除草機の効果確認や農業試験場と連携した石灰窒素を用いた秋季の強制発芽による防除試験も実施中である。



雑草イネ除草剤防除試験ほの設置

3. 具体的な成果

(1) 「地域ぐるみ」での防除対策の浸透

活動の結果、地域ぐるみで取り組む必要性について関係者や農家の意識統一ができた。雑草イネの対策は、個別の生産者やほ場単位だけで実施するのではなく発生地域全体として取り組むことが重要であるが、雑草イネの発生情報に基づいて対策を実施する仕組みができた。

また、地域で雑草イネの防除意識が高まり、農家同士でも対策を話し合うなど、地域ぐるみでの取組が行われるようになった。

(2) 防除対策技術の実証

現地で行われた防除対策技術は「技術情報」や「試行技術」として、県内の関係機関へ情報提供された。

(3) 雑草イネ発生レベルの低下

取り組み前よりも雑草イネの発生面積が減少するとともに、発生量が低下して発生程度レベルⅠ（小発生）のほ場が大半となり、レベルⅢ（激発）のほ場がほとんどなくなった。

4. 農家等からの評価・コメント

飯山市 A法人

雑草イネ対策を効果的に進めるに当たっては、雑草イネの発生抑制や拡散防止のため、発生ほ場を特定しながら地域内での発生状況などを生産者同士、関係機関で情報共有することが重要である。今後とも地域ぐるみで発生状況を把握しつつ、撲滅に向けての取り組みを進める必要がある。

5. 普及指導員のコメント

北信農業改良普及センター 担当係長 福本匡志

継続的な雑草イネの防除対策の実施に当たっては、農業者が地域で関係者と連携しながら雑草イネの発生状況を把握し、個々の農業者の能力に見合った実施可能な防除対策を実行していくことが望ましいと考えられる。

本活動により、地域農業者が主体となった雑草イネ防除対策活動の下地ができつつあると思われる。

6. 現状・今後の展開等

発生農家に対してはチェックリストを用いて、防除技術実施の可否についての聞き取り調査を行い、意向を確認しながら、除草剤の剤型など高齢者を中心に省力的で取り組みやすい技術の導入、普及を検討する。また、「特別栽培米」など減農薬栽培に対応した除草剤体系についても検討する。

『北信地域雑草イネ対策チーム』にJA米生産者部会や市農業再生協議会にも参画してもらいながら多角的な視点で防除対策を進める。